

風邪の咳？

気管支喘息の咳？

南大沢メディカルプラザ

くまがわ としかず
車川 寿一日本内科学会認定内科専門医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医
日本呼吸器学会認定呼吸器専門医
医学博士

冬は、風邪・インフルエンザをはじめとした呼吸器感染症が心配される時期です。そんな中、風邪症状のあとに咳だけがしつこく続いて苦しく感じるという経験をしたことがないでしょうか？ というケースの中には、一時的に単純に咳込むだけの場合、こじらせて二次的に気管支炎・肺炎を併発した場合、はじめから風邪ではなく気管支炎であった場合のほか、気管支喘息発作としての咳

症状になってしまっている場合などが含まれます。そもそも気管支喘息とは気道の慢性炎症性疾患であり、その慢性炎症によって気道過敏性（気温・湿度・気圧の変化や、ホコリ・煙などに簡単に反応する性質）が上昇し、気道の筋肉収縮・むくみ・痰の過剰産生によって気道狭窄（気流閉塞）をもたらし、息切れ・ゼーゼー等の呼吸音・咳などの発作症状を起こします。これは慢性の体質ですので、この体質が表れるようになると、風邪や季節の変わり目、何らかのアレルギー源の吸い込み等をきっかけに症状の出現と消失を繰り返すようになります。症状がな

い時は、発作が治った。病態が落ち着いたとは言えても、気管支喘息という病気が治癒したとは言えません。また、症状が軽いからといって放置していると、気道炎症が進み、後にコントロールが難しくなるケースさえあります。

この気管支の慢性炎症と収縮という二つの変化を修復する治療薬に、吸入ステロイド薬とβ2刺激気管支拡張薬があり、主役として効果を発揮します。そのほか、併用によってさらに病態を安定化させる数種類の内服薬があります。

気管支喘息は、見過ごさずにきちんと発見・診断をして、前述の薬剤を適切に使用し、長期にわたって管理コントロールしていくことが必要です。

気管支喘息は、見過ごさずにきちんと発見・診断をして、前述の薬剤を適切に使用し、長期にわたって管理コントロールしていくことが必要です。